鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

第128号　H30．6．30

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

人と出会い、人に学ぶ

事務長　喜平和隆

人との「出会い」は、不思議なものだ。私たちは、学校や職場という社会で、様々な出会いを繰り返している。その場限りのこともあるが、中には、自分の考え方や生き方に大きな影響を受けるような、一生忘れられない感慨深い出会いもある。ともに過ごした年数や、年上、年下の年齢差には関係なく、親身に相談相手となり問題を解決してくれたり、時には叱咤激励して自分を導いてくれたりした人との出会いが、自らの内面の成長につながったと強く感じている。

私の役所での仕事は、平成８年４月に着任した総合体育センター総務課施設管理係から始まる。担当業務は、鴨池公園及び鴨池緑地公園内の陸上競技場、野球場などの全ての体育施設のほか、武道館と体育館の施設管理と２つの公園管理など多岐にわたった。

当時は、Ｊリーグの人気が加熱し、鴨池陸上競技場が横浜フリューゲルスの準本拠地の指定を受けたこともあり、１年に数試合が行われた。熱狂的なサポーターで鴨池陸上競技場が満員となることもあった。しかし、陸上競技場はサッカー専用競技場ではないため、１年前にＪリーグの日程の打診があった場合は、県陸上競技会、県サッカー協会、県ラグビー協会の三者で大会日程を調整する必要があった。担当として、「Ｊリーグの試合を入れた結果、陸上競技場で行われる他の競技大会の開催に支障をきたしてはいけない。」との思いで必死だった。時には、Ｊリーグの試合翌日に、県高校ラグビーの決勝戦を入れた。試合終了後、サッカーのラインを緑のラインで消し、新たにラグビーのラインを引き直すなど、グラウンドを管理する職員には、相当な苦労をかけた。しかし、誰一人として異議を唱える職員はおらず、地元鹿児島の皆さんが喜ぶのであればと笑顔で引き受けてに綱渡りの過密日程であった。

くれた。天候まで考える余裕もなく、まさに綱渡りの過密日程であった。

Ｊリーグの試合前には、マッチコミッショナーといわれる最高責任者が、フィールドや会場警備、安全確認などを直接行い、試合終了後は、試合運営、審判の判定まで含めて、試合全体を総括し評価をする。試合前には、県職員も県サッカー協会の責任者と一緒に同行し、マッチコミッショナーにピッチの状態を説明した。お陰様で、鴨池陸上競技場は全国でも高く評価され、今では毎年恒例となっているジュビロ磐田のキャンプもこの頃から始まった。第三者から高い評価を得られたのは、全て現場職員の不断の努力の賜であると思っている。

また、鴨池野球場は外野が手狭で、近代野球らしい二塁打や三塁打の多い野球場となるよう両翼を９１・６５ｍから９８ｍに、中堅を１２０ｍから１２２ｍにする拡張工事と、球場全体の水はけをよくするためのグラウンド改修工事を、秋の高校野球県大会終了後、１年半かけて実施した。

通常、改修工事は競技団体や県民に迷惑をかけないようシーズンオフに実施するが、大工事となるとそうもいかない。競団体と頻繁に連絡を取り合い、調整を重ねながら日程を絞り込み、工事を実際に担当する県土木部と協議を重ねた。土木部の職員は、工期の厳しい計画であるにもかかわらず、鹿児島のスポーツ振興のためと快諾してくれた。今でも、全ての関係者は私の大切な仲間である。私自身の一方的な思いではあるが、一緒に事を成し遂げたという仲間意識があるからだ。

自身の仕事を振り返ってみると、自分で考え実行したことよりも、周囲の人と相談しながら実行したことの方が上手くいくことが多かった。ＩＴ技術が発達し、簡単に有益な情報を得ることができる時代であるが、選択する側の考え方、心のあり方、価値観などが情報収集に反映される時代になったようにも思える。集めた情報や知恵をどう使うかが目的達成のためには重要である。

多様な他者の考えを理解し、協働することで、自分一人では考えも及ばなかったこと、為し得なかったことに辿り着くことがある。人との出会いを自分にどう活かしていけるか。未来の創り手である皆さんに、ぜひ身に付けて欲しい力である。

雨天を圧倒する熱戦
～前期クラスマッチ

六月七日・八日の両日にわたり、前期クラスマッチが開催されました。天候が心配されたものの、予定していた全試合を無事にこなすことができました。

三年生にとっては、これが高校生活最後のクラスマッチということで、懸命な姿が印象的でした。また、一年生にとっては高校で最初のクラスマッチであり、体力・体格では二・三年生との差があるものの、入学後クラスで高め合ってきた団結力を如何なく発揮し、善戦した競技も多かったようです。

熱戦を制し，総合優勝を果たした３１Ｒ。競技のみならず応援でもクラスのチームワークを強めた。

計七種目の競技と、総合順位で競いましたが、三年生が一・二年生を圧倒、男子バレーをのぞいたすべての競技で優勝に輝き、総合順位も三年生が三位までを独占する結果となりました。今回のクラスマッチでさらに結びつきを強めた各学級の力を、今後の授業や学校行事に活かし、さらに学年、学校全体の団結力へと高めていってほしいものです。

なお、各種目および総合順位は次の通りです。

種目	優勝	2位	3位
総合順位	31R	36R	35R
男子バレー	24R	37RA	34R
女子バレー	31RA	35RA	22RB
男子バスケ	34R	33R	31R
女子バスケ	35R	26R	18R
サッカー	36R	31R	38R
ドッジボール	36R	27R	38R
卓球	38R	31R	35R

一冊の本からうまれる
数多くの視点
～LHR　集団読書

本校で四十年以上にわたり伝統的に実施されている集団読書が、五月下旬から六月中旬にかけて行われました。課題図書である、三年『三四郎』（夏目漱石・新潮文庫）、二年『おとうと』（幸田文・新潮文庫）、一年『螢川・泥の川』（宮本輝・新潮文庫）について、各学年活発な議論が行われました。同じ本を読みながらも異なる意見や解釈が出てくることに、更なる知的好奇心が芽生えました。

集団読書の様子。クラスごとに活発な議論が交わされた。

3年生課題図書『三四郎』感想文より　31R 寺田 歩弥

この本を読んで、美禰子という女性にとても興味を持った。三四郎が思いを寄せる美禰子は、三四郎に対して思わせぶりな態度をとりながら、一方では野々宮とも親密な間柄にあり、最後には全く別の男性のもとへ嫁いでいくという、ミステリアスな女性だ。

「女は恐ろしいものだ。」

与次郎は三四郎にこう語った。美禰子はこの「恐ろしい女」の代表なのではないかと思う。謎に包まれた美禰子に苦しみながらも、三四郎はその謎めいた彼女に惹かれずにはいられない。すべてを知り尽くすことができないからこそ、より魅力的になる。読み進めながら、いつの間にか私も彼女に強い魅力を感じていた。

「あなたに会いたいから行ったのです。」

と三四郎に言われても、美禰子は動じない。いよいよ何を考えているかわからない。しかしそれこそが、三四郎が彼女に心惹かれる理由なのだ。

結果的に三四郎の恋は実らない。けれども私は、それでよかったのだと思う。美禰子のような女性は、手に入ったらきっと、輝きがあせてしまう。決して手に入らないからこそ、美しいのだ。もしも恋が実っていたら、最初は幸せで充たされていても、後から物足りなさを感じただろう。実らなかったからこそ、美禰子に対する三四郎の恋心は、彼の心の中で崇高な思い出となり、不変の美しさを持つようになる。二人の間で特別な意味を持つ三十円を美禰子に返した三四郎の中には、彼女に対する恋心に区切りをつけ、前に進もうとする決意があったのだと思う。きっとこの恋は、この先の彼の人生でも何らかの形で影響を及ぼすはずだ。

与次郎が言うように、女は確かに恐ろしい。しかしそれゆえに、人は恋に落ちるのだ。恋愛について多くのことを考えさせられる小説だった。

７月の行事予定

		7　月		食堂
1	㊐	3年進研記述 英検第1回二次試験		×
2	月	**1・2年実力考査(1日目)**	通学マナー・校外指導	○
3	火	**1・2年実力考査(2日目)**	通学マナー・校外指導	○
4	水		通学マナー・校外指導	○
5	木		通学マナー・校外指導	○
6	金		通学マナー・校外指導	○
7	㊏	悠学講座② 大学生による学部学科紹介(1年)		×
8	㊐			×
9	月	学年朝会　スクールカウンセリング 学校安全の日		○
10	火	修学旅行結団式(5限)		○
11	水		**2年修学旅行**	○
12	木		**2年修学旅行**	○
13	金		**2年修学旅行**	○
14	㊏	3年代ゼミ東大模試		×
15	㊐	3年代ゼミ東大模試 教員採用試験会場		×
16	㊊	海の日		×
17	火			○
18	水			○
19	木			○
20	金	**月曜の授業**		○
21	㊏	駿台東大模試	夏季休業日	×
22	㊐	駿台東大模試	夏季休業日	×
23	月	夏季悠学講座開始　三者面談開始 2年進路講演会	夏季休業日	○
24	火		夏季休業日	○
25	水		夏季休業日	○
26	木		夏季休業日	○
27	金		夏季休業日	○
28	㊏	駿台京大模試，代ゼミ九大模試 同窓会総会	夏季休業日	×
29	㊐	駿台京大模試	夏季休業日	×
30	月		夏季休業日	○
31	火	夏季悠学講座終了(1・2年)	夏季休業日	○